

日本の4-6月期GDPはプラス成長

ポイント① 4-6月期のGDPはプラス成長

8月16日発表の2021年4-6月期の日本のGDP（国内総生産）統計によると、実質GDPは前期比0.3%増、前期比年率（前期比を1年当たりの変化率に換算した値）では1.3%の増加となりました。需要項目別の前期比増減率を見ると、設備投資が1.7%増加、家計消費も4月から5月にかけて緊急事態宣言等の行動規制はあったものの、0.9%増加しました。GDPは2四半期ぶりのプラス成長となりましたが、新型コロナウイルスの感染拡大により成長率全体の伸びは低調となりました。

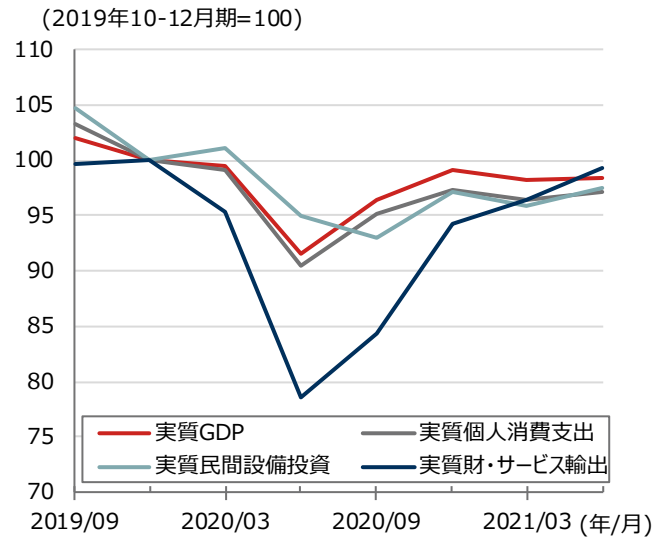
ポイント② 7-9月期は再び低調な見込み

7-9月期の実質GDPは個人消費の落ち込み等から再び低調となる見込みです。日本でもワクチン接種が進んでおり若年層にも普及しつつありますが、東京都では7月から4度目となる緊急事態宣言が発出されている上、東京オリンピックが無観客で開催され、外国人観光客の消費をはじめとした経済効果を楽しむことができなかった点がGDPに影響を及ぼすと考えられます。また、半導体不足による生産遅延やデルタ変異株の影響がグローバルに広がっており、外需が落ち込むことも懸念されています。

ポイント③ 欧米でもGDPがプラス成長

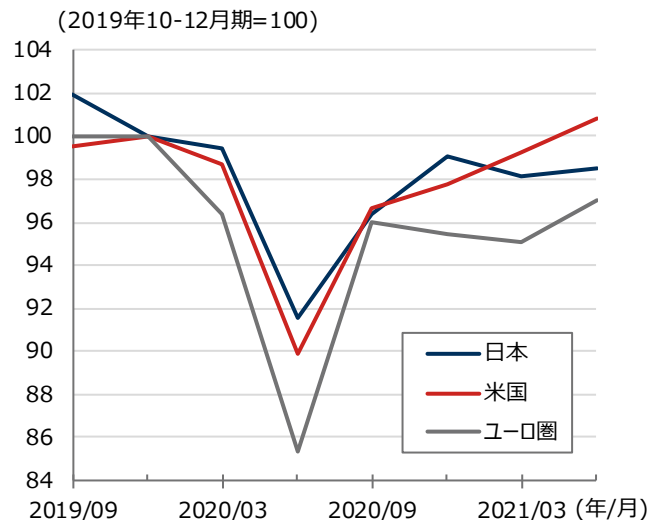
欧米でも4-6月期の実質GDPはプラス成長でした。特に米国の実質GDPは大きく成長し、コロナ前の水準に回復しています。ユーロ圏でもプラス成長となり、年内には感染拡大前の水準まで回復すると予想されています。両者ともワクチン接種の普及により経済が正常化に向かっていますが、高い接種率にも関わらず変異株により感染が再拡大している点には注意が必要でしょう。

日本の実質GDPと主要需要項目



期間：2019年7-9月期～2021年4-6月期、四半期
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

日米欧の実質GDP



期間：2019年7-9月期～2021年4-6月期、四半期
（出所）Bloombergより野村アセットマネジメント作成

重要
イベント

8月18日 日本貿易収支（7月）

8月20日 日本全国消費者物価指数（7月）